2016年10月2日　「はまぐり」　第特別号

はまぐり

2A

「職」に対して我々が

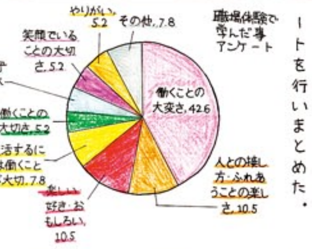
私たちの将来は？

「働く」とはどういうことなのだろうか。今年、総合的な学習の時間で取り組んだ「職場体験学習」を通して私たちが感じたり学んだ、働くことの意義や目的をまとめた。これは、14歳の私たちの「働くことは」という問いに対する答えである。

6月16日、芽室西中2年生は、芽室町内の官公庁、小学校や会社等の多くの方にご協力をいただき職場体験を実施した。

職業と一言で言ってはいるが、職業には、たくさんの種類がある。たとえば、学校の教師だけでも、国語の先生、数学の先生、理科の先生、社会の先生、英語の先生、他にも、保健体育や家庭科、美術に、技術の先生と、何通りもある。私達、中学2年は、高校生を卒業してから働くのであれば、4年と4ヶ月、大学を卒業してから働くのであれば7年と4ヶ月か、8年と4ヶ月しかなく、学生でいられる時間が、あまりない。その少ない時間の中で、私達は、自分達が生きるための、働く場所を決めなければならないのだ。その、自分達の将来のために、今回の職場体験で、働くとはどんなことなのか、働くことの意義とは、どんなことなのかを、学ばせていただいた。

今回の職場体験を通して、何を学び得たのかを、2年A組全員に、アンケートを行いまとめた。



1番は、約43パーセントで、働くことの大変さだった。接客業を体験した人からは、疲れていても、疲れを見せず、常に笑顔でいることがとても大変だということを学んだとの回答があった。また保育所で体験を行った人は、小さい子は、何をしだすか、わからず働くことが楽じゃないし大変だということが理解できた。と、回答していた。やはり、働くことは、とても疲れるし、色々なトラブルが起こると解決しなければならない。責任を負うこともあるだろう。

2、3番は、共に、10パーセントで、人との接し方やふれ合うことの楽しさと、好きなことを仕事にすると、楽しくてとてもやりがいがあるとの回答だった。

全38通りの回答があり、似たような回答を同じ意味として取り入れたが、答えは様々で、まさに十人十色の感じ方があった。ただ2年A組全員が、「なぜ働くのか」「働くことの意義は何か」を考えただけでなく、さらに働くことの大切さや大変さ、楽しさや喜びなどを、感じたり、よんだりできたということがわかった。

ところで回答の中に、便利な暮らしをしているけれど、その「便利」は働いている人がいて、初めて成り立つものであって、働いている人に感謝をして、生活をしなければ、ならないのだと、改めて思った。と言う人がいた。みなさんも、何かしら、便利だと感じた事は、ないだろうか。便利、とは今を生きる人々の「欲」を満たすためである。商品を開発する仕事をしている人々も、商品を考える時は、『どうやったらこの商品を買った人々が便利だと思えるのだろうか』、『どうやったらこの商品が、買ってもらえるのだろうか』など、人々の便利のためを、考え、アイディアを生み出している。私たちは、きっとふだんから「便利」をたくさん感じているのだと思う。たくさんの「便利」を感じているからこそ、働いている人々への感謝の気持ちを持つことが大切なのではないのだろうか。接客業の方々が笑顔でいるからこそ、お客さんも、気分良く、すごせる。考えてもらえるとわかると思うが、にらんでいる様な表情の人が、接客したら、びっくりする人もいると思うし、もし赤ちゃんだったら、泣いてしまうかもしれない。だから、笑顔で接客することも、人々の「欲」を満たしている。このように、人々が働くのは、生きるため、お金をかせぐためでもあるが、その仕事は、人々の「欲」を満たすためでもある。私たちは、働いている人に、当たり前と思っているが、その当たり前という人々の欲を働いている人が、守ってくれているのだ。私たちは、協力しているからこそ、便利が成り立っていて、働き合っているから、欲が満たされるのだ。

今回、「働く」とはどんなことなのか、意義や目的、大変さについて取り上げてきた。働くことは、人が収入を得て生活を安定させ、仕事を通じて精神的に充実した生活を送るうえでとても大切だ。しかしそれだけではない。職場体験を通して得た1番の学びは、働くことを通して自分の夢や理想を叶えたり、多くの人たちと一緒に働くことを通して社会に参加することも重要な意義や目的であるということだ。

終わりに、平成25年現在、日本の労働者のおよそ4割が、アルバイト、パート、派遣労働者、契約労働者などの非正規労働者だ。非正規労働者は、賃金が安かったり、リストラの対象になりやすく、安定した生活を営むことが難しい。そのような中で、私たちが夢や理想を叶え、安定した収入を得たり社会貢献することは簡単なことではない。しかし、私たち一人ひとりが、自分の個性を生かし、夢や理想を持ち、自分や多くの人のために社会の中で働く場を得ることをあきらめず努力し続けることが大切だ。

三年生が抜けて…

夏の大会が終わり、1・2年生だけの、新しいチームになった。西中には、体育系が8つ、文化系が1つある。

今回、1・2年生だけになった新しいチームのキャプテンに取材を行い、各部にチームの抱負と楽しいことを表にした。

どの部活も、仲間との絆が大事だと思うし、他にも、仲間どうしでのコミュニケーションを取ることや支え合うこと、チームで決めた目標へ心をひとつにし、勝利そして敗負をもわかちあえることもとても大切だと思う。

取材を通して感じたことは、どの部活もチームの抱負の実現を目指して努力しているということだ。もちろん、それは簡なことではないと思う。チームが一つにまとまらず、時には、戻することもあるだろう。厳しい練習にくじけそうになることもあるだろう。

それでも、それを乗り越えていけると感じさせるチームの姿を各部の取材から見ることが出来た。それぞれの部活が、その部活の持つ良さや喜びを見つけ、目指す目標に、きっと到達することを、願ってやまない。

最後に、この秋最新の大会結果を紹介する。

まず、サッカー部だ。部員が11人とぎりぎりの人数で健闘し、2勝2敗と今後につながる結果を残した。女子バドミントン部は、シングルス・ダブルスともにベスト8に進出する活躍を見せた。男女バスケ部は、共に宿敵芽中に敗れ、惜しくも準優勝に終わった。

	抱負	楽しいこと
サッカー	道東大会進出	仲間で勝利を喜び合う
女子バドミントン	仲間で支え、声援ができるチームになる	協力しながら行う部活
女子バスケ	西部方面優勝 全十勝ベスト8以上	みんなでバスケをする
男子バスケ	目標を全員で守る	反省しながら成長する

自分の意見

今年の6月から日本の選挙権年齢が18歳以上になった。これまで20歳以上だった選挙権年齢が、昨年6月の法改正で70年ぶりに変わり、大きな話題になった。

私は新聞やテレビでこのニュースを知った。そこで1つ疑問が浮かんだ。

「そもそもなぜ18歳に年齢が引き下げられたのだろうか」と言う疑問だ。調べてみると世界では18歳から選挙権というのが主流だ。また、日本では若者の政治に対する関心が低いことが問題視されている。そこでこれを機会に、日本の将来について考え、政治に参加してほしいという意図もあるということが分かった。

では、そのねらいはうまく反映されたのだろうか。参議院選挙の投票率を見てみると、20代の投票率は全世代中、最低で7割近くの20代が投票していないという驚くべき結果となった。60歳代以上の人口が若者の人口より多いことを考えると、票数の差はかなり大きいことが分かる。では、なぜこのような結果になってしまったのか。20代以下の投票率が80%以上のスウェーデンのことを調べてみた。すると、スウェーデンの若者は政治への関心が高、く、はっきりと主張する人が多いことが分かった。さらに、選挙で投票するのは当たり前という意識を多くの若者が持っていた。

私は、スウェーデンのように日本が若者の投票率が高い国になるために、政治への興味を持つ以上に、1人1人が自分の意見を持つことが大切だと考える。自分の意見を持ち、それを述べることが政治に関わる出発点になると考えるからだ。

五輪と戦争

2016年8月4日、ブラジル、リオデジャネイロで第31回夏季オリンピックの幕が上がった。12時間の時差、調整が難しい中、過去最多の計41個ものメダルを日本人選手が獲得した。そして4年後、夏季オリンピックが私たちの国、東京で行なわれる。

ところで、このオリンピックとは一体何なのだろうか。「オリンピック」にはどのような意味があるのだろうか。ただアスリートの世界一を決めたり、アスリートたちのトレーニングの成果を披露し合う場なのか。その疑問に迫るために、歴史を紐解くことにした。

オリンピックは、近代オリンピックと呼ばれるようになってから100年、古代オリンピックから数えれば3000年以上に渡って行われてきた。その起源は、古代ギリシャにある。オリンピックの開催の目的、それは「戦争を止めさせる」だった。[illegible]だ。近代オリンピックにおいてもその目的は同様だ。オリンピックは「平和の式典」と呼ばれ、旗には5つの輪が描かれている。これには、5つの大陸の人々が平和に過ごせるように、という願いが込められている。しかし、その願いとは裏腹に、私たち人間は、戦争や粉争、内戦を繰り返してきた。今も昔も。このような中で、私はオリンピックの持つ「平和への願い」が薄れてしまっているのではないかと感じる。そして、そのような中で4年後、東京でオリンピックを開催して良いのだろうかと思うのだ。

では、どうすれば本来の意味を失わずに、オリンピックを続けていけるのか。まずは世界中の人々がオリンピックの意味を知ることが大事だと考える。日本では「誰が金メダルをとった」「誰はメダルをとれなかった」など、メダルのことばかりがニュースで取り上げられる。これでは、本来の意味と大分かけ離れてしまっていると言えるだろう。ドーピング問題はそのわかりやすい例である。東日本大震災のように、終戦記念日のように、メディアや各個人がオリンピックの意味を意識していくことが大切だと思う。オリンピックの意味「平和」を確かめることで、戦争を行ってはいけないという気持ちが出来、国民の意志となる。過去に第一次世界大戦が勃発したため、第5回ベルリン大会は中止されたという歴史がある。国民が、私達が、オリンピックの意味を知らないことで、表彰台ではなく戦場に立つことにもなるのだ。

それでも平和にならないというのであれば、オリンピックは戦場で行えればいい。戦場でやるとなれば、内戦・粉争問題も放置することはできなくなる。

「地震大国」と呼ばれる日本。名の通り地震が原因となる被害を多く受けてきた。阪神淡路大震災や関東大震災、東日本大震災。最近で言えば熊本地震もその1つだ。自然災害以外にも、過去に戦争によって受けた、たくさんの被害。広島・長崎には、その傷跡が今も残されている。たくさんの被害を受けてきた国だからこそ、伝えなければいけないこと。オリンピックを通して他国に伝えること、確認しなければいけないことは、同じことを繰り返さないことだ。オリンピックを本当に意味のあるものにするならば、まずは、やはり1人1人がオリンピックの意味を知っていくことが大事だ。4年後に私たちの国で開催される東京オリンピックでは、「平和の式典」を言葉だけ、文字だけのものにするのではなく、「かたち」あるものにしていきたい。三〇〇〇年前の古代オリンピックから伝えられてきた「戦争をやめる」ということを忘れてはいけない。1番忘れてはいけないのは私達国民なのだ。これから先、5つの輪がバラバラにならないことを願う。

勉強の悩み

勉強についてクラスの人にアンケートをとった。その結果は次のようになった。1番多かったのは、やる気が出ない。2番目は分からない問題が出てくるとどうすればいいか分からない。その他、うるさい時や目の前にマンガがあると集中できない。英単語が暗記できないという意見があった。

これらの問題をどう解決すればよいかを先生にインタビューして質問してみた。すると次のような答えが返ってきた。

1つ目の「やる気が出ない場合」について。その時は自分の心にやるぞ」といいかけるのが有効とのことだ。

2つ目の「分からない問題をどうすればいいのか」その場合は、なるべく自分で調べその後、分からなかったら先生や友達などに聞くと良いと教えていただいた。

このような、勉強方法を是非参考にして、勉強に取り組めばきっと効率アップ、成績アップ間違いなしだ。

編集後記

題名、「はまぐり」は2Aと担任の濱田先生を表現したものだ。

2年生となりクラス替えをした。初めて同じクラスになった人もいれば、昨年から同じクラスだった人もいたりと、これまでにないメンバーになった。そのためうまくクラスがまとまらず、体育祭に参加することも怪ぶまれた。しかし、「自分たちで解決する」ことで絆が深まったような気がする。そしてこのことを見守ってくれた先生がいることでここまでやってこれた。

このように、私たちの学級は「先生」と「31人」が1つとなって今があるのだ。

メンバー
編集長　石川　嵬
口田　諒
望月　裕翔
柳澤　有紀
高橋　美咲子
久朗津　千梨